

全学でとり組んだ専門職連携教育 2021 第1報

—IPE 準備研修—

Interprofessional education incorporated in Nagano University of Health and Medicine 2021, Part I: IPE preparatory training

井部 俊子^{1*} 桑原 良子¹ 大町 かおり² 外里 富佐江³
宮越 幸代¹ 山本 良彦² 宮脇 利幸³

¹ 長野保健医療大学 看護学部

² 長野保健医療大学 保健科学部 理学療法学

³ 長野保健医療大学 保健科学部 作業療法学

要旨：長野保健医療大学は、2021年に保健科学部と看護学部の全学生が合同で学ぶ専門職連携教育（IPE）を実施した。IPEを全学で実施するに先立ち、全学の教職員を対象とした研修会を4回開催した。本稿では第1報として、IPEに関する共通理解を深めることを目的としたIPE準備のための研修内容を報告する。第1回は「IPW（専門職連携実践）とIPEの基本的な考え方とカリキュラムマネジメント」を学び、第2回は「本学におけるIPEカリキュラム」を紹介し、第3回は「IPW演習Ⅰの授業の実際とファシリテーション」をテーマとした。第1回の基調講演のポイントを記述し、第2回、第3回は授業担当者が解説した概要と、各回の参加者アンケート調査結果を示した。

キーワード：専門職連携教育、専門職連携実践、カリキュラムマネジメント

1. はじめに

長野保健医療大学（以下本学）は、長野医療技術専門学校から発展して、2015年に保健科学部（理学療法学専攻、作業療法学専攻）を開設し、2019年に看護学部看護学科が開設された。

本学のカリキュラムの特徴に「専門領域を超えた連携ができる人材を育成」することがあり、理学療法、作業療法、看護の専門職をめざす学生が一年次から共同で継続的・体系的にIPW（Interprofessional Work）の実践を学ぶためのIPE（Interprofessional Education）関連科目が設置されている。

IPEは、ヒューマンケア論（一年次）、IPW論（二年次）、IPW演習Ⅰ（三年次）、IPW演習Ⅱ（四年次）の科目で構成される。

IPE関連科目（IPW演習Ⅰ・Ⅱ）は、保健科学部および看護学部の教員が合同で取り組むこ

とから、IPE関連科目代表者会議で具体的な準備を進めていく必要があった。IPW演習Ⅰは、学生が職種の理解と、どのように理解を促進するとよいのかを事例から学び、問題の分析を行う。IPW演習Ⅱ（集中講義）では、IPW演習Ⅰを踏まえた実践編を予定している。そこで、IPE関連科目代表者会議（以下、会議）を立ち上げ、月1回開催される会議のなかで各分担に分かれて作業を進め、その工程をこの会議で確認しながら準備を進めた。

本学では、初めての全学での取り組みのため、教員間の共通認識を深め、教員の役割となるファシリテーションを学ぶことが重要と考え研修を企画した。研修のタイトルは、「全学で専門職連携教育を行うための研修プログラム」とし、FDSD（FD：Faculty Development；SD：Staff Development）委員会と共同で開催した。研修は、新型コロナウイルス感染症の健康上の配慮を考え、対面とオンラインを併用した。会議メンバーは、研修の録画、研修後のアンケート作成を担当し、FDSD委員会では、研修の出席確認、欠席者の支

*e-mail: Ibe.toshiko@shitoku.ac.jp

（受付日：2021年12月22日／受理日：2022年4月28日）

援（ビデオ録画配信）、アンケート集計等、を担当した。研修プログラムは、全4回とし、以下の内容とした。各研修会の参加者は平均47人であった（表1）。

本稿では、第1回、第2回、第3回をIPE準備研修と位置づけ（第1報）、第4回IPE実施報告（第2報）として2回に分けて報告する。

2. 「全学で専門職連携教育を行うための研修プログラム」の概要

2-1. 第1回 基調講演「IPWとIPEの基本的な考え方とカリキュラムマネジメント」（オンライン）

2021年2月22日 17:00-18:30

於 南館3階 S300教室

講師：酒井郁子（千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育センター センター長）

講演の要点：

1) 健康専門職育成に関する動きについて

国連のSDGs（Sustainable Development Goals）からWHO（World Health Organization）の保健人材の世界戦略（スキルを備え、意欲のある保健医療従事者への公平なアクセス）としての専門職連携の強化、そしてCOVID-19感染拡大に伴う対面式授業が制限されることによるより強固なICT（Information and Communication Technology）の活用が必要となった。

2) IPEの実装（n=767課程）（2019年の調査）

「実装あり」が看護職で64（13.5%）、他職種146（50.0%）、「実装予定あり」は看護職23（4.8%）、他職種26（8.9%）、「実装なし」は看護職388（81.7%）、他職種120（41.1%）であった。

3) 専門職連携の基礎知識

・専門職連携とはなにか

「あらゆる状況で最高の質のケアを提供するために、異なる専門分野の複数の専門職が、患者、介護者、地域と連携して包括的サービスを提供すること」であり、「保健・医療関連の実践には、臨床および非臨床の業務が含まれる。」したがって「専門職連携実践とは、単一職種に調整を任せることではない。」

・専門職連携実践能力の獲得を目指した学習目標

①チームワーク

②役割と責任

③コミュニケーション

④学習とリフレクション

⑤ニーズの把握を伴う患者との関係

⑥倫理実践（特に、同僚の見解は等しく有効で重要であることを認めることが重要）

4) IPE教育ガイドラインとカリキュラムマネジメント

・IPE実装：実際にどう教育するか

「社会の期待」にもとづき「教育組織の使命」がつくられ「育成する人材像」が示され、「行うべきIPE」が導き出される。

・IPEガイドライン

①IPEを理解する。

表1 Interprofessional Education（IPE）研修プログラム

	日 時	テーマ・講師	参加人数
第1回	2021年2月22日（月） 17:00-18:30 於：S300 （オンライン講演）	〈テーマ〉基調講演「IPWとIPEの基本的な考え方とカリキュラムマネジメント」 〈講師〉酒井郁子（千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育センター センター長）	43人
第2回	2021年3月24日（水） 17:00-18:30 於：S300	〈テーマ〉本学におけるIPEカリキュラム 〈講師〉井部俊子 松房利憲 外里富佐江 大町かおり 宮越幸代 山本良彦 北澤拓実	46人
第3回	2021年5月19日（水） 17:00-18:30 於：S300	〈テーマ〉「IPW演習Ⅰ」の授業の実践とファシリテーション 〈講師〉外里富佐江 大町かおり 宮越幸代	50人
第4回	2021年7月28日（水） 17:00-18:30 於：S300	〈テーマ〉「IPEの実装～IPW演習Ⅰを終えて」 〈講師〉井部俊子 外里富佐江 大町かおり 宮越幸代	48人

- ② IPE を実装する。
 - ③ かかわる人 (player) を巻き込む (鶴の一声、とにかくやる、いろいろやってみる)。
 - ④ 資源に注目する。
 - ⑤ 学習を配置する (IPE カリキュラムマネジメント)。
 - ⑥ 規制を調整する。
 - ⑦ 専門職間の介入と戦略を評価する。
- 5) 卒業生からの IPE 振り返り (Gillican, C 他, 2014)
- 単にやるだけ、は逆効果
- ① ゆるい大学での IPE、授業は覚えていない、コモンレクチャーは意味がない。
 - ② 専門職が他の専門職をどう認識しているかについては意味深い。
 - ③ 臨床での演習実習が受け身になると、非効果的で誤解も生む。
 - ④ 教員の価値と教育実践が不協和音を奏でる。(隠されたカリキュラムに鈍感、IP 重視と言いながらそうではない教材)
- 6) IPE にかかわる教員の育成 (FD)
- ① 教員の「IPE をやらねばならぬ」気持ちのアップ
 - ② やったことがないのでわからない。
 - ③ 教員を同じ空間に配置するだけでは、IPE 経験を得られない。
 - ④ 教員間の相互理解と IPE の意味の自己創造が必須
 - ⑤ ファシリテーションスキルの獲得が必須であるが、やったことがないのでいや
- 7) まず、大学執行部 (トップリーダー) から学ぶ
- ① IPE を守り育てる覚悟を持つ (予算をつける、人を配置する、宣言する)
 - ② 大学の IPE 担当教員リーダーチームを信頼し責任を委譲する。
 - ③ IPE に関心をもつ。
 - ④ 賞讃・祝福・具体的支援 (人・金・情報)

2-2. 第2回 テーマ: 本学における IPE カリキュラム

2021 年 3 月 24 日 17:00-18:30

於 南館 3 階 S300 教室

内容:

- 1) 専門職連携教育 IPE の約束—本学大学案内に

PR されていること—

- 2) IPE 関連科目の立ち上げをどのように準備したのか
 - 3) 本学のカリキュラムとカリキュラムマネジメント
- ① IPW 論 ② IPW 演習 I ③ IPW 演習 II

2-3. 第3回 テーマ: 「IPW 演習 I」の授業の実際とファシリテーション

2021 年 5 月 19 日 17:00-18:30

於 南館 3 階 S300 教室

内容:

1. IPW 演習 I の授業の実際
 - 1) 授業目標および授業構成とスケジュール
 - 2) 授業の提出物およびリフレクションと成績評価
2. 担当教員の役割とファシリテーション
 - 1) 担当教員の配置の背景と目的
 - 2) グループワーク時のファシリテーション
 - 3) グループ発表時のファシリテーション

2-4. その他: 意見交換

3. 結 果

3-1. 研修プログラムの評価

「全学で専門職連携教育を行うための研修プログラム」実施後、研修参加者に質問紙調査を実施した。調査の回答は自由意思によるものとし、個人が特定されないように配慮した。質問紙調査は、5 件法のリッカートスケールの質問項目 (5=とてもそう思う 4=少しそう思う、3=どちらでもない、2=あまりそう思わない、1=全くそう思わない) とし、各項目について % 集計した (表 2)。

「全学で専門職連携教育を行うための研修プログラム」アンケート調査結果では、「そう思う」の回答者割合が、第 1 回目では全項目が 76% 以上だったが、回を重ねるごとに「そう思う」の回答者割合が低下した。第 2 回目、「研修で得た知識やスキルを活かすことができますか」の項目では、最小値が 1 であった。いずれも中央値は 4 であったため、少数の意見であることが読み取れた。全体を通して、各項目の中央値は 4~5 の範囲であった。

表2 「全学で専門職連携教育を行うための研修プログラム」アンケート調査結果

項目	1回目 n=41				2回目 n=40				3回目 n=46			
	中央値	最小値	最大値	そう思うの 回答者割合(%)	中央値	最小値	最大値	そう思うの 回答者割合(%)	中央値	最小値	最大値	そう思うの 回答者割合(%)
研修の内容は理解できましたか	4	3	5	95	4	2	5	90	4	2	5	67
研修は期待やニーズに合っていましたか	5	2	5	85	4	2	5	78	4	2	5	78
研修の資料は役に立ちましたか	4	2	5	90	4	2	5	86	4	3	5	89
研修で得た知識やスキルを活かすことができますか	4	2	5	76	4	1	5	68	4	2	5	74
研修時間の長さは適っていましたか	4	3	5	88	4	2	5	80	4	2	5	70
オンラインでの研修は効果的でしたか	5	2	5	90	—	—	—	—	—	—	—	—
教室の環境は快適でしたか(室温、座席等)	4	2	5	83	4	3	5	98	4	2	5	63

注. 5段階のリカートスケールの質問項目 (5=とてもそう思う 4=少しそう思う 3=どちらでもない 2=あまりそう思わない 1=全くそう思わない) そう思う (5=とてもそう思う+4=少しそう思う) を%で示した。

4. 考 察

「全学で専門職連携教育を行うための研修プログラム」を全4回実施し、本学のカリキュラムの特徴でもある「専門領域を超えた連携ができる人材を育成」する考え方を共有し、教員間でIPEを理解できる機会となった。

第1回目では、オンラインの研修となったものの研修内容が理解できた回答者割合が95%という結果が得られた。お互いの職種を離れて、学習目標を話し合い、合意できるようIPEカリキュラムをとともに作り上げる知識が得られた。現実的に「この研修で得られた知識やスキルを活かすことができると思う」とした回答者割合は76%という結果が得られた。具体的なIPEの知識とスキルをどう活用するのが課題となった。

第2回目では、本学における具体的なIPEカリキュラムについて、教育理念からIPEをどのように配置し、準備に至るまでの経緯を共有した。研修内容が理解できた回答者割合が90%と

いう結果が得られたが、第1回研修と同様に、現実的に「この研修で得られた知識やスキルを活かすことができると思う」とした回答者割合は68%という結果が得られ、具体的なIPEの知識とスキルをどう活用するのが課題となった。また、研修への期待やニーズが回を重ねるごとに低下していた。

第3回目では、研修時期が新年度に入り、新たな教職員が参加したことからも研修内容が理解できた回答者割合が低下したことが考えられた。

5. まとめ

保健科学部と看護学部が合同で実施する専門職連携教育の準備として、教職員を対象とした全4回の研修を実施した。本稿では、第1回の基調講演の要点を記述し、第2回、第3回の研修プログラム概要を記述した。さらに、第4回の専門職連携教育の実践報告を第2報とした。